

◆地域活動

ヒトエグサ養殖指導（那覇地区漁協）

水産海洋技術センター 紫波俊介

1. 目的

昨年度に引き続き、那覇地区漁協組合員に対し、ヒトエグサ養殖指導を実施した。

組合員の事情により網管理を丁寧に行う事が引き続き難しいことが予想されたため、今年度は管理もし易く、昨年度本張り後良好な結果を出した道路に近い地点で種付けより養殖を実施し、地域事情に適したヒトエグサ養殖の普及を目指した。

2. 方法と結果

当職は種付け時期に県外・国外出張のため、種網設置作業を共に実施することが出来無い事が予想されたため、事前に組合員と事業計画を話し合い、道路に近い地点（「A地点」とする）にて組合員が種網設置をする事とした。

しかし帰国してみると、A地点ではなく、従前の沖合養殖場のみの種網は設置だった。

そのため沖合での種網を一部岸側に設置し試験するよう計画変更し、12月にアーサ網を岸寄りのA地点・B地点・C地点（空港ゲート付近→大

嶺崎方向）に一枚ずつ本張り展開した。

C地点は網を高く張り出したせいか、あまり密集しなかったため、収穫はしなかったが、A・B地点は収穫を行った。A地点は昨年同様生育は良好で、複数回収穫する予定である。

3. 考察

組合員の事情によりなかなか管理が難しい点、岸側で種付けしなかった点、その理由が不明瞭な点、組合職員の関与が薄い点が課題である。

個人的に恐ろしい点は、このまま小規模な養殖を続けても、生活できる収入にはならないので、組合員の経営・健康を害する可能性があることである。

よって今後の普及活動はこれまでの試験結果を踏まえ、経営が成り立つ規模での試験計画樹立と、組合の指導業務がどこまで組合員をフォロー出来るかを明確にし、場合によっては、言いにくいことではあるが、勇気を持って養殖を中断するよう、指導していきたい。



種網は沖合である事、箒にてまじめに掃除されていたため、アーサはまばらだが網付着物は少ない



沖合養殖場（12月19日）



沖合養殖場（2月4日）



沖合養殖場（2月4日）



岸側養殖場（A地点）

沖合よりも岸側の方がヒトエグサに厚みがあり、色が濃く、生育も良好



沖合養殖場（2月4日）



岸側養殖場（A地点）

どちらも多少スジアオノリが付着。こまめに網管理をする必要がある